



スターゼン
株式会社

決算説明会資料

2019年
5月23日

1. 2019年3月期決算及び年間見通し

代表取締役会長兼社長

中津濱 健

業績	2019年 3月期 上期実績	売上高は増加 ↗、利益は減少 ↘ 売上高 : 1,740億円 (前期比 +5.1%) 経常利益 : 27億円 (前期比 ▲24.4%) ・食肉、加工食肉とも取扱数量は増加、売上高増加 ・国産牛仕入額の高騰、国産豚仕入相場の乱高下等が利益を圧迫 ・人件費の高騰、物流費の増加が収益を押下げ
	2019年 3月期 下期実績	売上高・利益ともに増加 ↗ ↗ 売上高 : 1,771億円 (前期比 +1.5%) 経常利益 : 36億円 (前期比 +1.3%) ・食肉、加工食肉ともに取扱数量増加、売上増加 ・国産牛仕入は継続、国産豚の仕入額減により、利益確保 ・人件費は横ばい、物流費の売価への転嫁難が継続
	2019年 3月期 通期実績	売上高は堅調 ↗、利益は回復基調 ↗ 売上高 : 3,512億円 (前期比 +3.3%) 経常利益 : 64億円 (前期比 ▲11.7%) ・食肉、加工食肉ともに取扱数量増加、売上は堅調に推移 ・国産牛仕入は、和牛・交雑ともに高値継続により苦戦、国産豚が下期業績を牽引 ・人件費は上昇に歯止め、物流費は売価への転嫁が課題

売上高（品目別）

（単位：億円）

	前期 (18/3)	当期 (19/3)	増減額	増減率	構成比
国産食肉	1,480	1,483	+3	+0.2%	42.2%
輸入食肉	1,251	1,334	+83	+6.6%	38.0%
加工食品	490	511	+21	+4.3%	14.6%
ハム・ソー	135	138	+2	+1.6%	3.9%
その他	45	46	+1	+2.2%	1.3%
計	3,401	3,512	+111	+3.3%	100.0%

2019年3月期業績サマリー



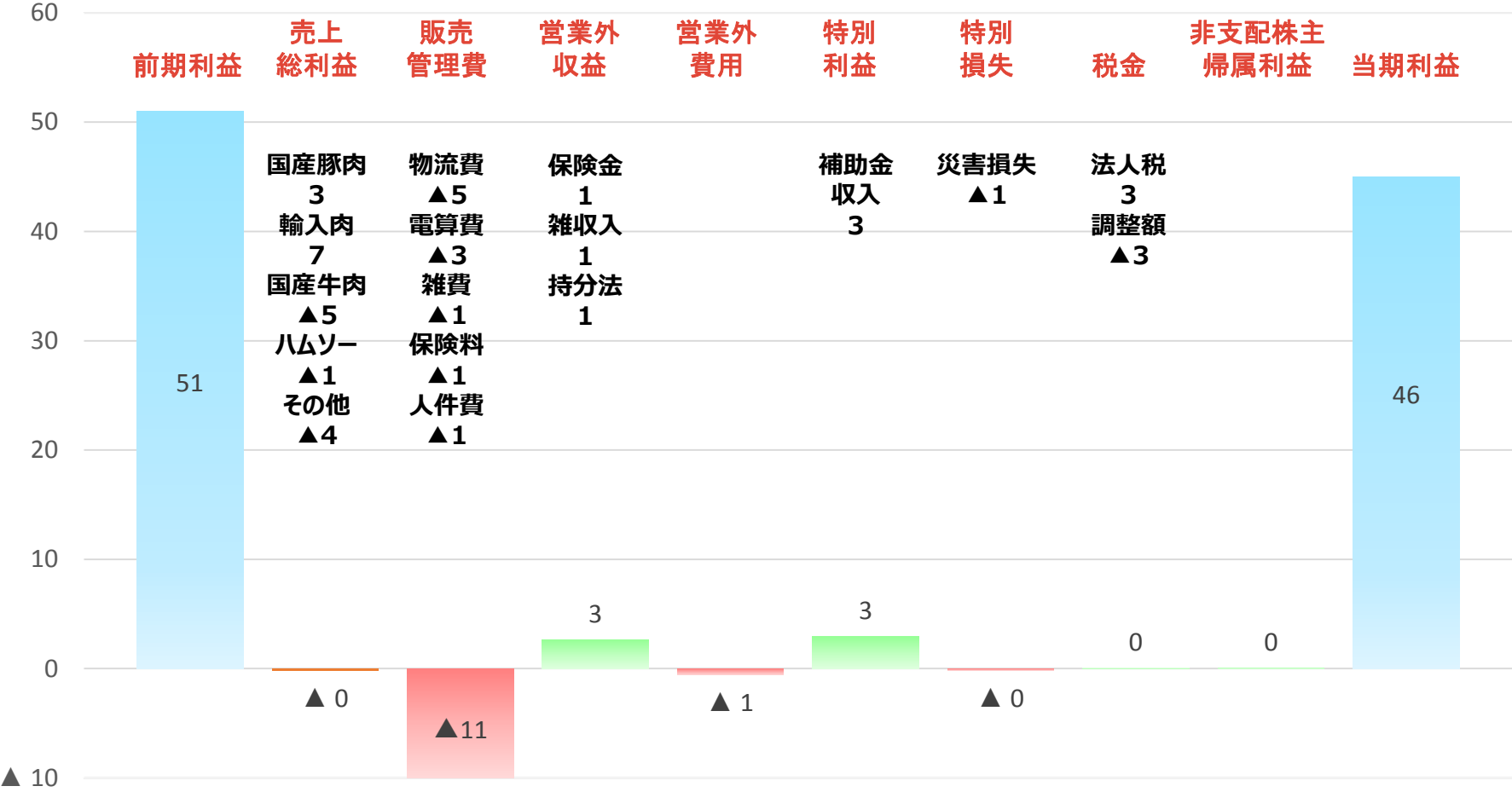
前期比較PL

(単位：億円)

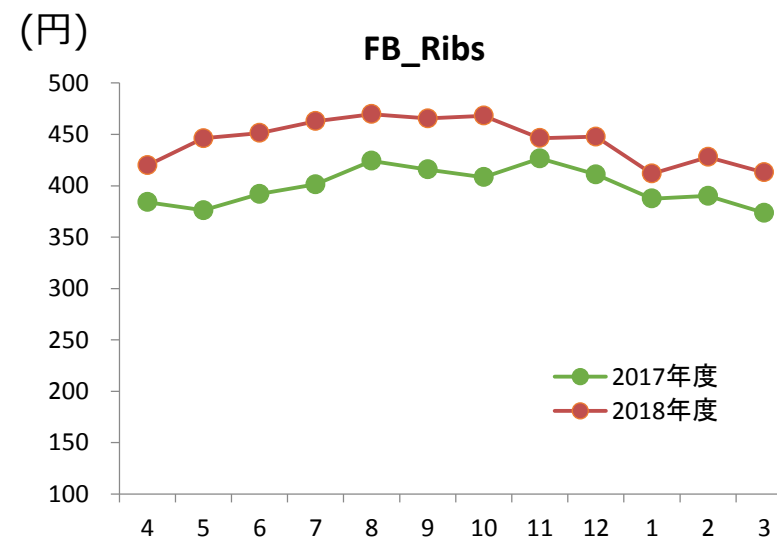
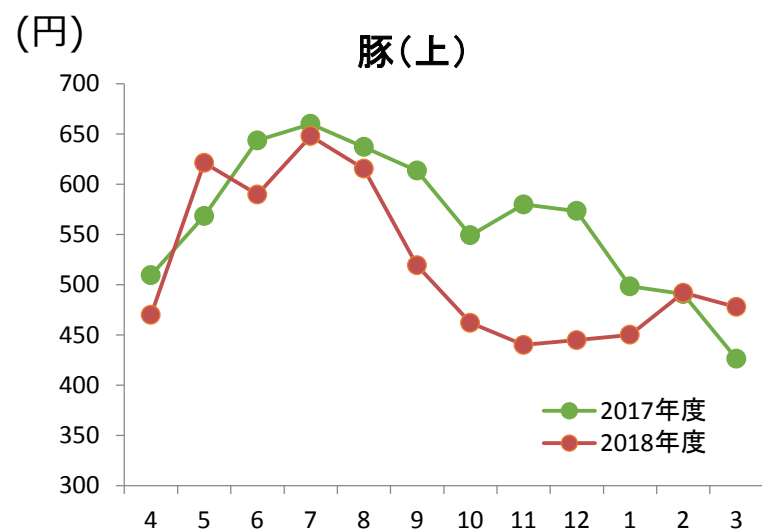
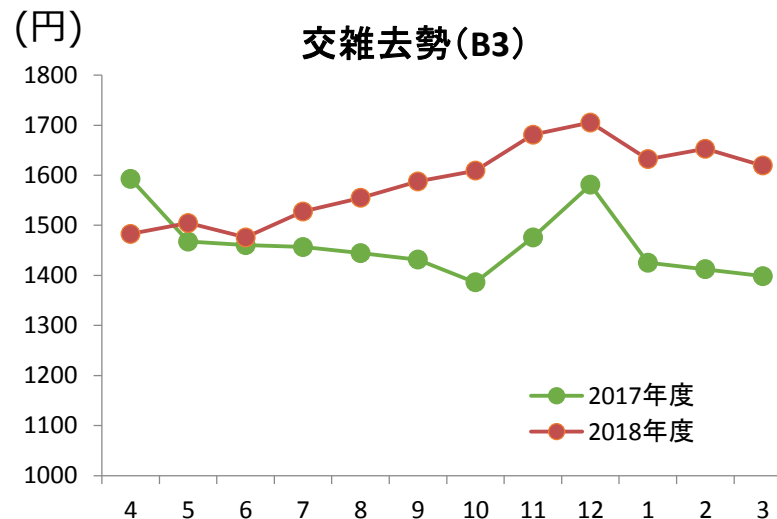
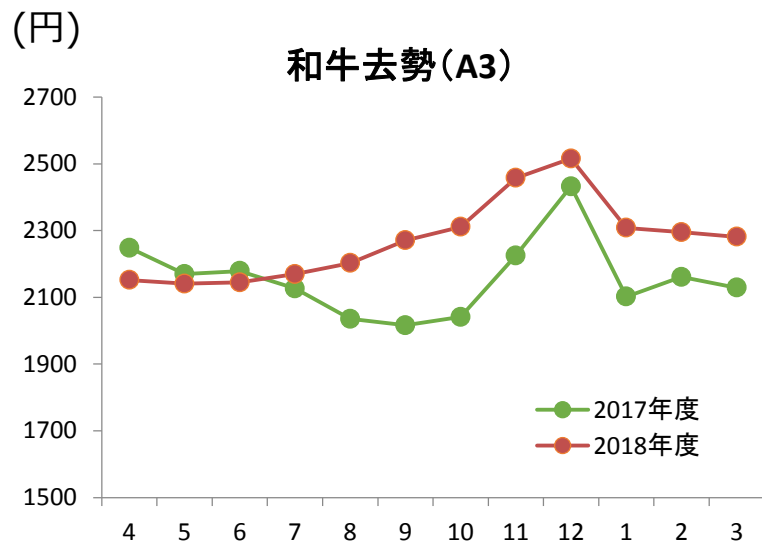
	前期 (18/3)	対売上高 利益率 (18/3)	当期 (19/3)	対売上高 利益率 (19/3)	増減額	増減率
売上高	3,401	—	3,512	—	+ 111	+ 3.3%
売上総利益	306	9.0%	306	8.7%	0	▲0.0%
営業利益	59	1.7%	48	1.4%	▲11	▲18.1%
経常利益	73	2.1%	64	1.8%	▲9	▲11.7%
税前利益	71	2.1%	66	1.9%	▲5	▲8.0%
税後利益	51	1.5%	46	1.3%	▲5	▲10.8%
設備投資	37	—	41	—	+ 4	+ 8.5%
減価償却費	24	—	26	—	+ 2	+ 7.5%

損益増減要因概要

(単位：億円)



2019/3期 相場環境（牛仕入価格が上昇）



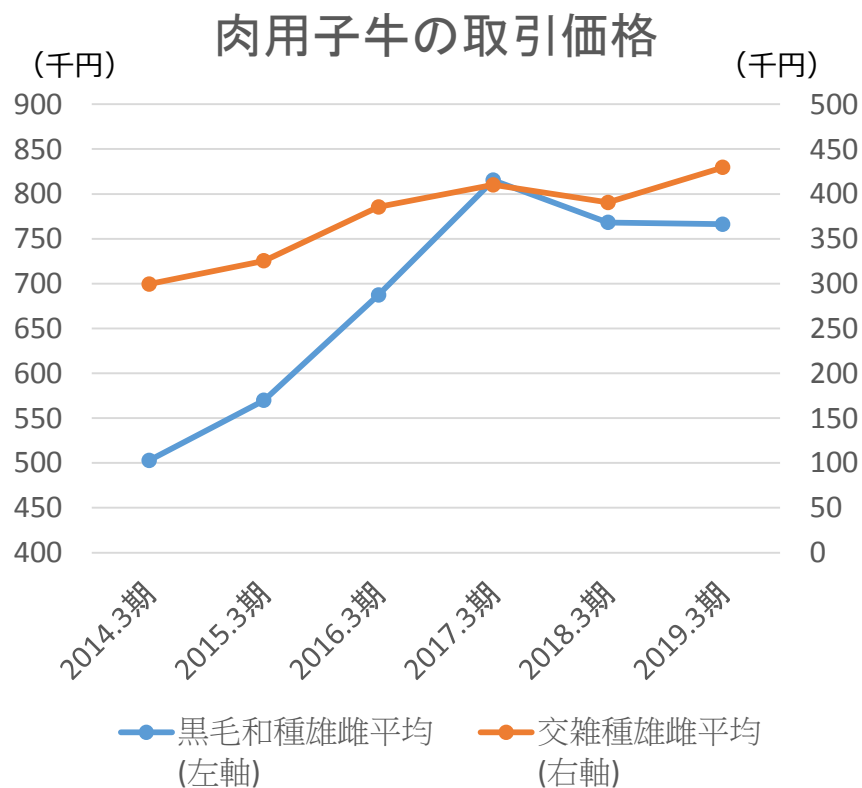
国産牛・豚・・・東京都中央卸売市場日報

輸入・・・財務省貿易統計

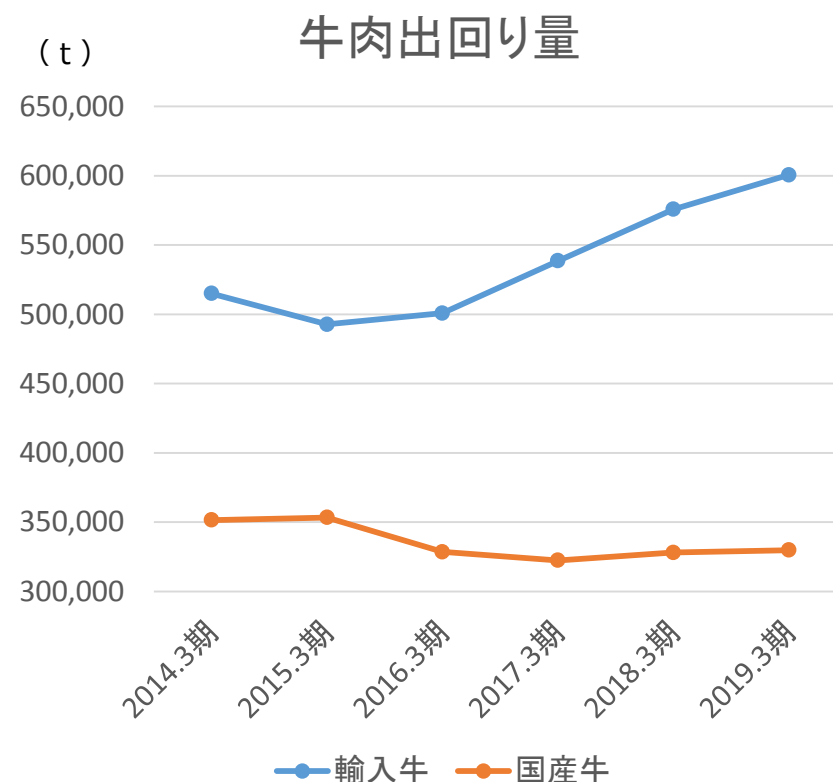
和牛相場高騰と輸入食肉の増加

■ 和牛相場高騰による利益率低下

■ 国際的な食肉需要増加にともなう輸入食肉価格の高騰による利益率低下



農畜産業振興機構:国内統計資料 肉用子牛の取引頭数と価格より



農畜産業振興機構:国内統計資料 需給表より

2020年3月期 通期業績予想



(単位：億円)

	上半期予想 ①	下半期予想 ②	通期予想 ③=①+②	前期実績 ④	通期対比 ③ ÷ ④
売上高	1,810	1,840	3,650	3,512	+3.9%
営業利益	22	29	51	47	+6.5%
経常利益	30	38	68	64	+5.9%
税後利益	20	28	48	45	+5.1%

・20/3期通期業績予想 総括

- ① 加工食品、輸入食肉を中心に、売上増を見込む
- ② 物流費の売価への転嫁により、営業利益の改善を図る

直近3力年比較

(単位：億円)

	2016年 3月期実績	2017年 3月期実績	2018年 3月期実績	2019年 3月期予定	2020年 3月期予定	増減率
一株当り配当金 (円)	90	100	120 ^{※1}	120 ^{※2}	120	100.0%
配当金総額 (百万円)	733	948	1,143	1,168	1,168	100.0%
配当性向	19.3%	20.5%	22.3%	25.5%	24.3%	95.3%

※1 創立70周年記念配当10円を含む

※2 2018年5月10日に発表した配当予想より10円増額しております。

2. 中期経営計画と事業環境について

代表取締役会長兼社長

中津濱 健

中期経営計画

位置づけ

事業環境の変化に対応し、新たなステージへ
ステップアップする3年間

2019年3月期

2020年3月期

2021年3月期

【3つの柱】

攻め

総合食肉加工メーカー
への挑戦

攻めと守りを支える機能強化

コーポレート機能強化

守り

業務プロセス改革による
グループ競争力強化

【最終年度 目標数値】

売上高

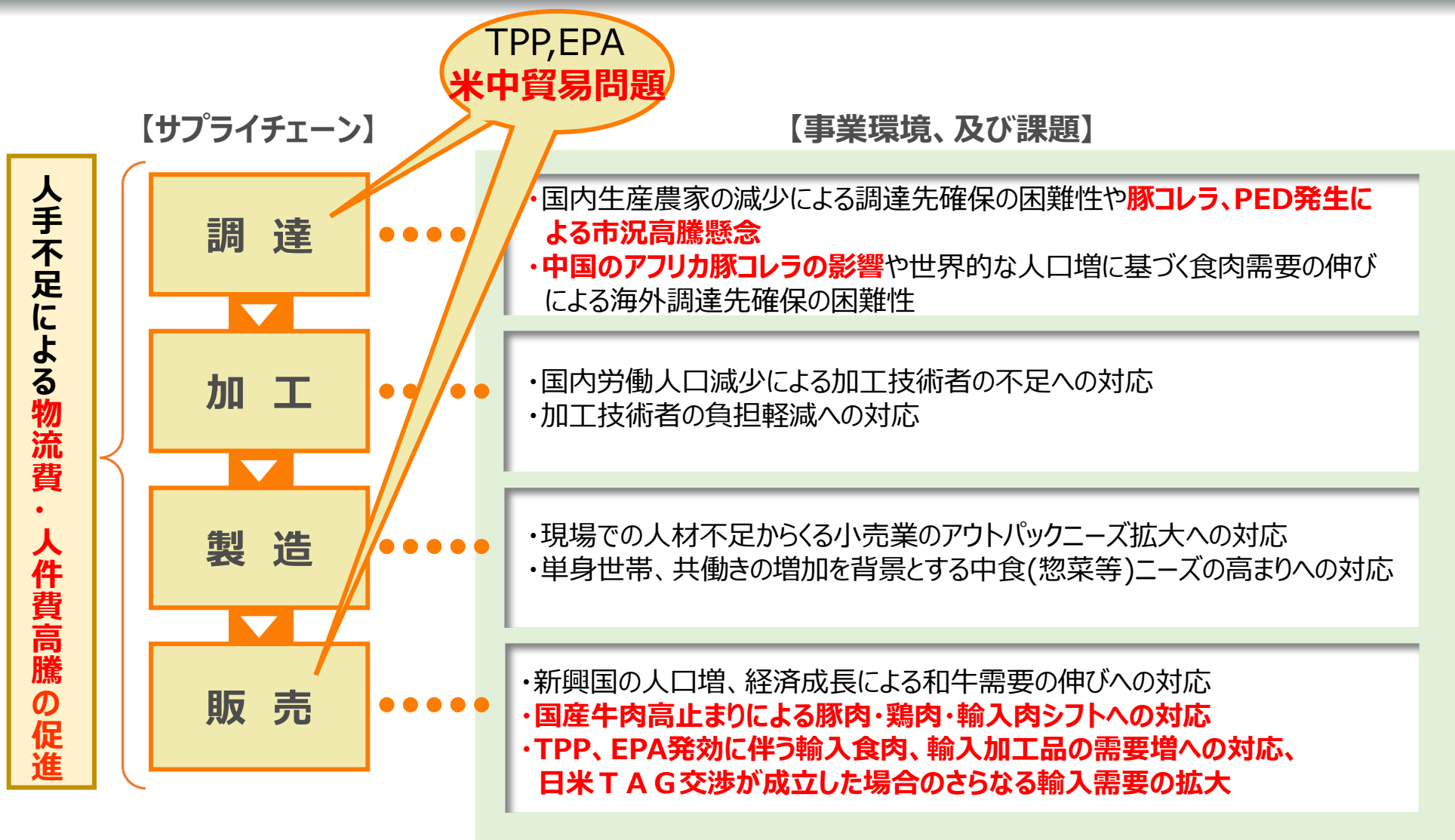
3,800億円

営業利益

100億円

4つの成長ドライバー

4つの成長ドライバー	進捗	要因
継続的な成長	○	売上・取扱量・シェア拡大
加工食品の取扱量・利益拡大	△	取扱量拡大、利益率低下 本宮工場の計画未達
コストの適正化	×	物流費・人件費高騰
三井物産との協業	△	輸出・品質保証分野 海外案件検討



3. 今後の施策について

代表取締役副社長 永野 章

◆効率化・コスト削減◆

効率化・コスト削減の推進による体質改善を行い、営業利益率の向上を図ります。

効率化・コスト削減

- ・工場の機械化・省人化
- ・業務プロセス見直しによる意思決定の迅速化、効率化
(組織再編、物流効率化、ICT投資)



営業利益率の向上

◆食肉処理・加工工場の機械化・省人化推進◆

食肉処理加工工場に、除骨ロボット「ハムダス-RX」「ワンドスミニマークⅡ」を順次導入推進しています。

ハムダス-RX



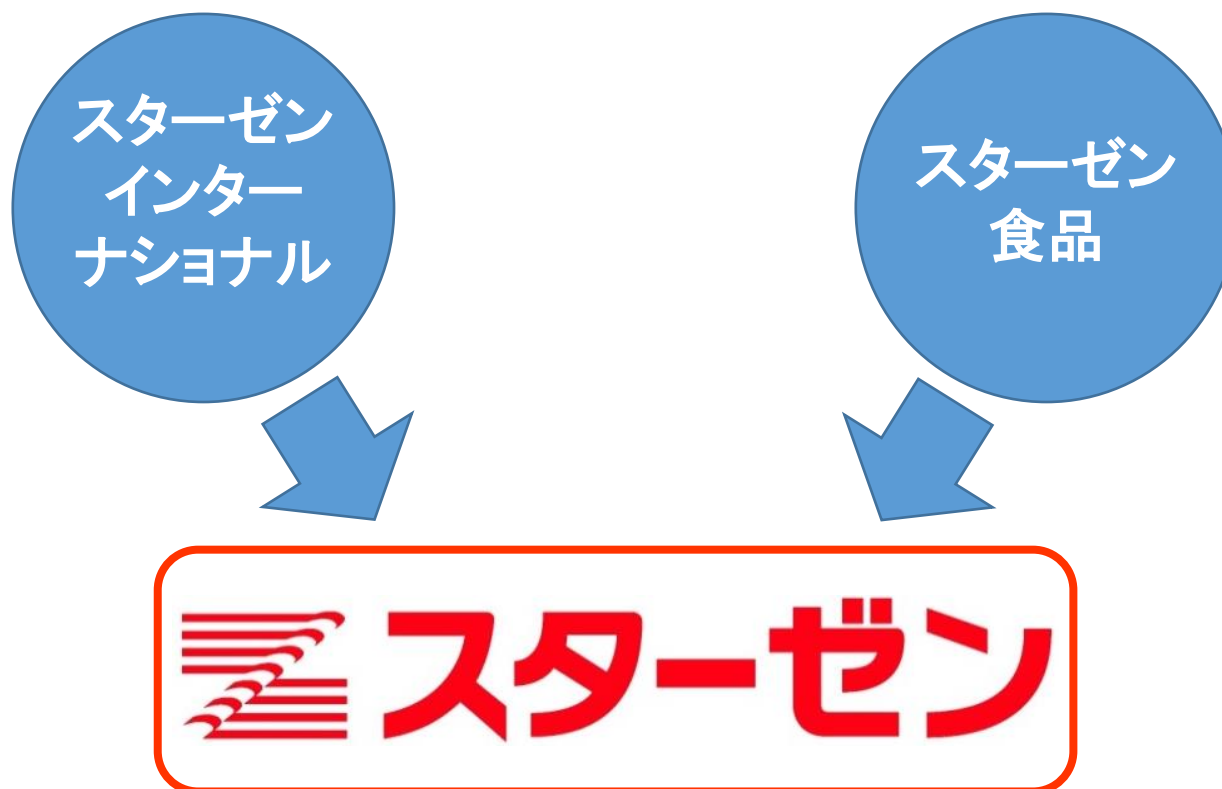
ワンドスミニマークⅡ



- 効率化
- コスト削減

◆組織再編の推進◆

子会社をスターゼンに統合し、意思決定のスピードアップを図り、業務効率化、コスト削減を推進しています。



◆物流体制の見直し◆

物流費の高騰に対応するため、お客様のご理解のもと物流の効率化を推進し、新たな取り組みも積極的に進めます。



幹線物流（外部業者）

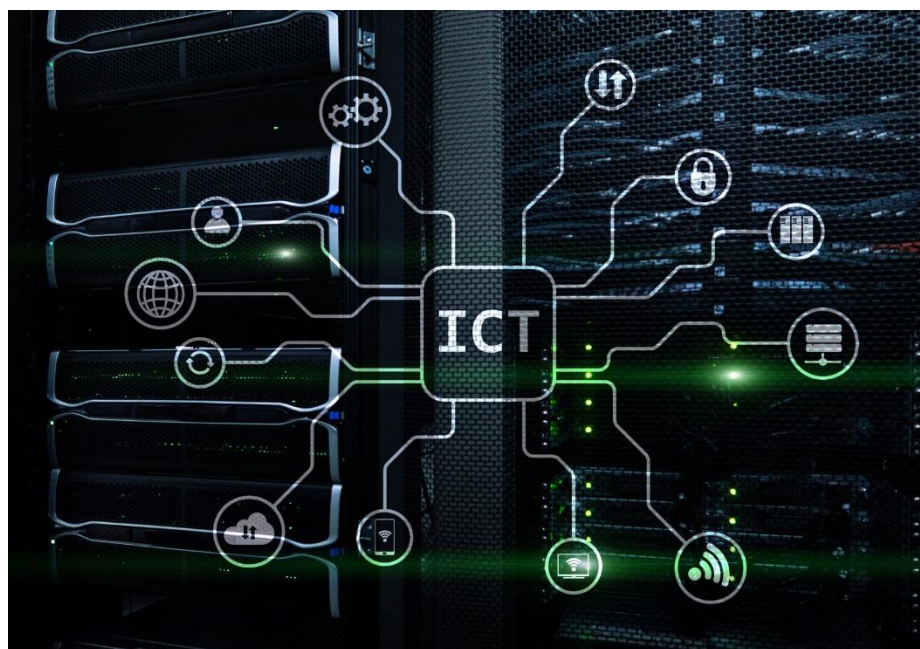
- ・共同配送、相互乗入などによるコストアップ分の吸収

事業所～お客様への物流（自社）

- ・効率化、コスト削減
- ・サービスレベルの維持と適正価格
- ・新たな取り組み

◆ICT技術への投資◆

意思決定の迅速化、業務効率化、コスト削減を円滑に機能させるために、ICT技術への投資を行い業務プロセスの見直しを強化・推進します。



4. 経営戦略について

代表取締役副社長

永野 章

◆食肉加工品の販売拡大◆

営業利益率の高い食肉加工品の拡大のためハンバーグ工場を新設しました。



◆プロセスセンター機能の拡充◆

近年社会問題となっている店舗の利益ロス問題や人手不足問題解消のため、当社のプロセスセンターの機能拡充を推進しています。

■賞味期限延長技術

◎スキnpack



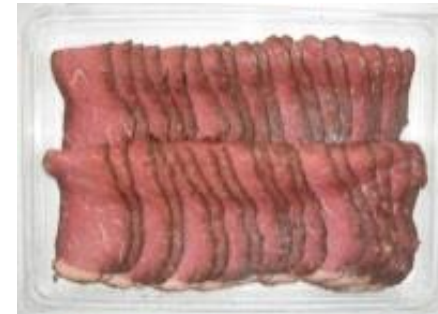
真空に近い状態でパックし、肉の鮮やかな発色とロングライフを両立。

◎賞味期限延長技術



初発菌数が少ない原料を使用。通常、3日間の賞味期限を5日間に延長。

■人手不足解消商品群（スライスパック、タレ漬け商品など）



◆国内生産の強化◆

疾病や国際的な食肉需要増による将来的な食肉確保の困難性から国産牛・豚の生産を強化し事業の安定化を図ります。

牛肉 グループ内調達率目標 10%

・北海道の繁殖農場と肥育農場、
生産委託農場の飼養頭数増



豚肉 グループ内調達率目標 40%

・宮城県の2農場を当社グループ農場へ
統合することによる出荷頭数増



◆海外事業の強化◆

①TPP11、日EU・EPAへの対応

- ・海外供給基盤の拡充
- ・経済連携協定等の発効国の食肉、加工食品の取扱い拡大

②輸出事業の拡大

- ・牛肉輸出施設にロシア等、6か国が追加認定。輸出可能先が拡大。
- ・シンガポール、タイ、フィリピン、中国等の東南アジアに対する輸出・貿易の拡大。

③外食企業の海外進出への対応

- ・海外に進出している外食企業に対し、現地企業と提携・加工した商品の販売拡大

28の国と地域に輸出が可能に



5. 社会からの要請への対応について

代表取締役副社長

永野 章

◆品質向上の推進◆

総合食肉加工メーカーへの転身を図るにあたり、品質保証体制のレベルを一段あげるため体制を強化します。

①品質保証本部の設立

- ・現状の品質管理に重点を置いていた体制を見直し、製品の企画・設計・製造・出荷・販売後に至るまで品質保証本部が関わることで、品質の作りこみを推進。
- ・工場、営業所のSQF取得推進

②農場SQF、JGAPの取得推進

- ・2020年のオリ・パウ対応やお客様からの要望に応えるため、牛、豚の生産農場の農場SQF、JGAPの取得を推進。



◆SDGsへの対応◆



グローバル化が進展する中、国際社会の一員として、持続可能な開発目標に賛同し、当社の営業活動を通じてより良い国際社会の実現に貢献します。

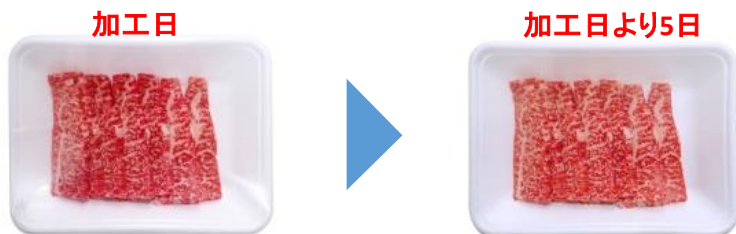
■食品ロスへの対応

◎スキンパック



真空に近い状態でパックし、肉の鮮やかな発色とロングライフを両立。

◎賞味期限延長技術



初発菌数が少ない原料を使用。通常、3日間の賞味期限を5日間に延長。



■環境に配慮した持続可能な農業の推進

◎循環型農業の推進(秋田純穂豚)



「循環型農業」により日本の原風景を守り、日本の農業の維持発展に寄与します。



フード・アクション・ニッポン・アワード2015 入賞





決算説明会 補足資料

2019年
5月23日

証券コード：8043

取引状況

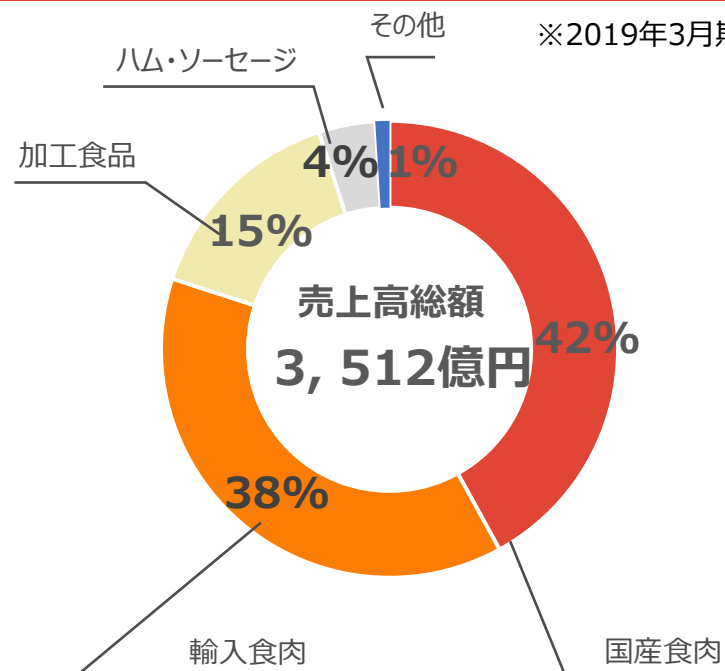


生産者からお客様までのすべてに関わるトータルサプライチェーンを構築

食肉に関しては、**日本有数**
豊富な商品力をもつ

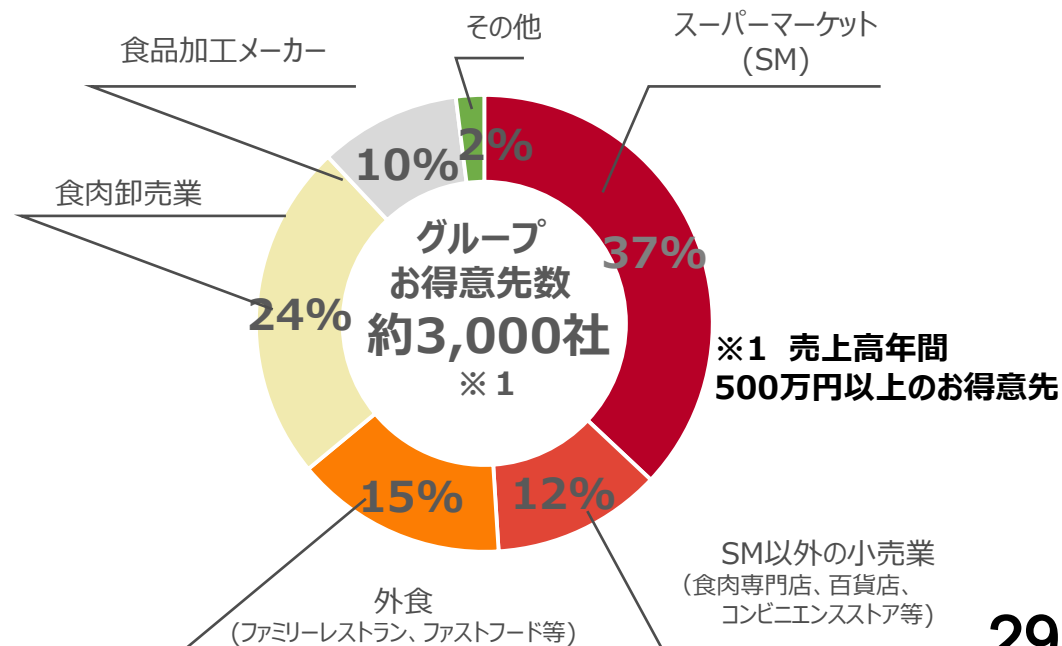
品目別売上げ構成比

※2019年3月期実績



あらゆるチャネルに対応
大半が業務用商品

販売先構成比



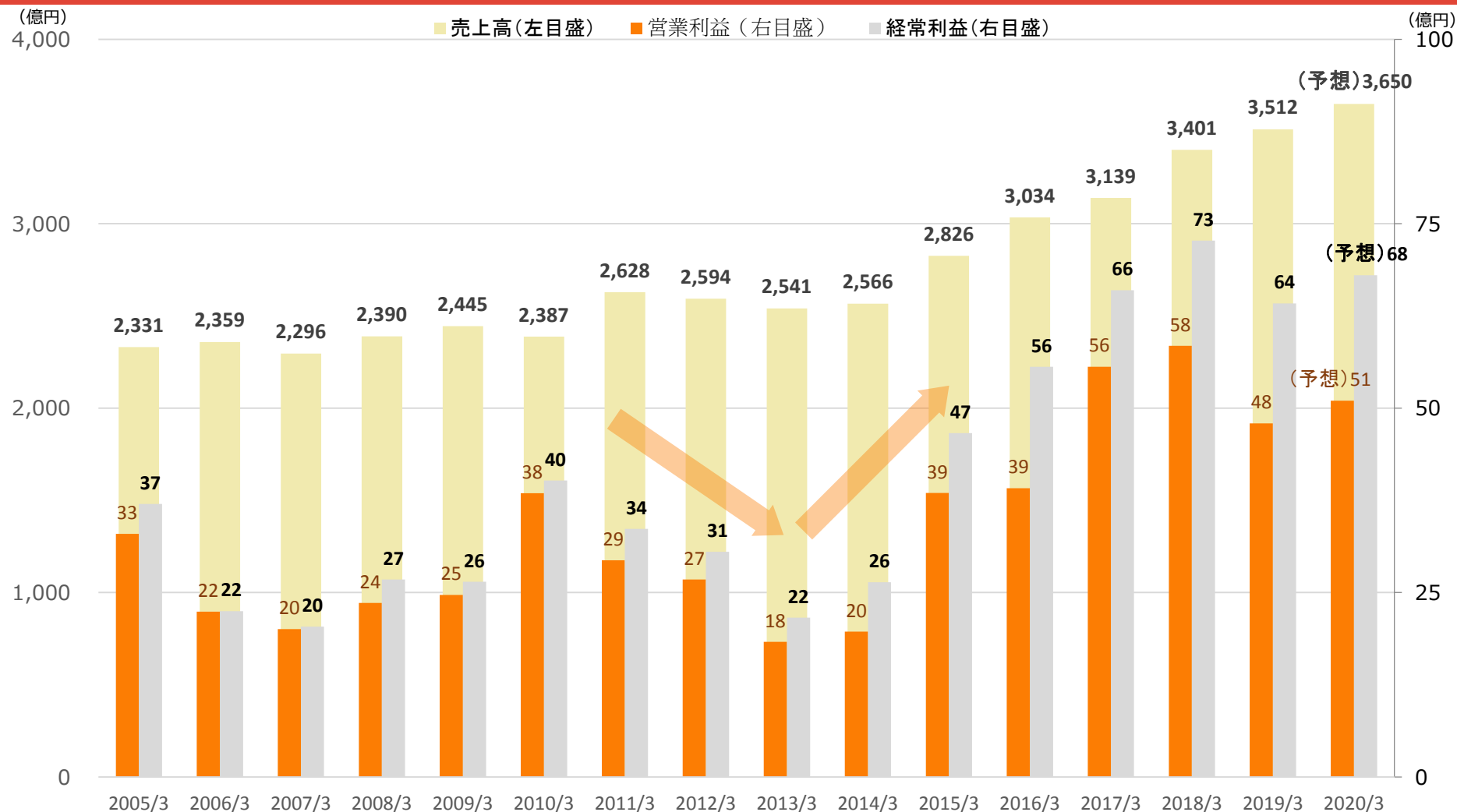
売上高内訳＜2019年3月期 v s 2014年3月期＞



(単位：億円)	2014/3	2019/3	2014/3比 増減率
食 肉 ＜構成比＞	2,084 ＜81.2%＞	2,817 ＜80.2%＞	+35.2%
加 工 食 品 ＜構成比＞	321 ＜12.5%＞	511 ＜14.6%＞	+59.4%
ハ ム ・ ソ ー セ ー ジ ＜構成比＞	110 ＜4.3%＞	138 ＜3.9%＞	+25.5%
そ の 他	51	46	▲9.8%
計	2,566	3,512	+36.9%

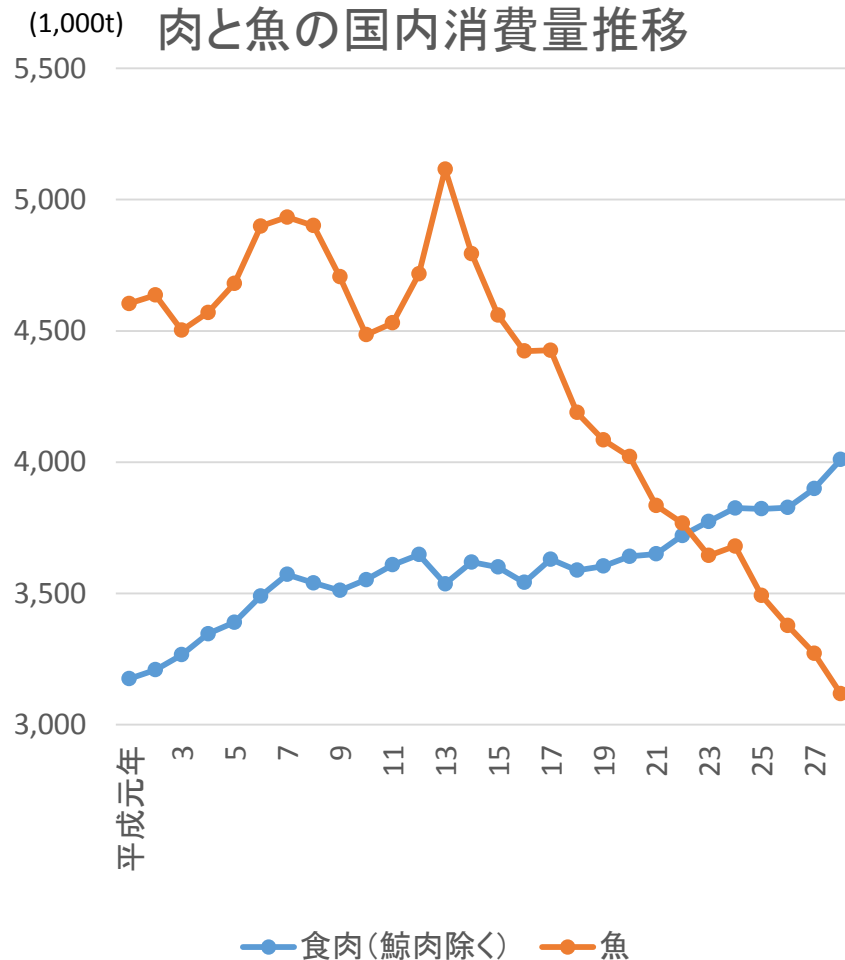
過去の業績推移

売上高・営業利益・経常利益

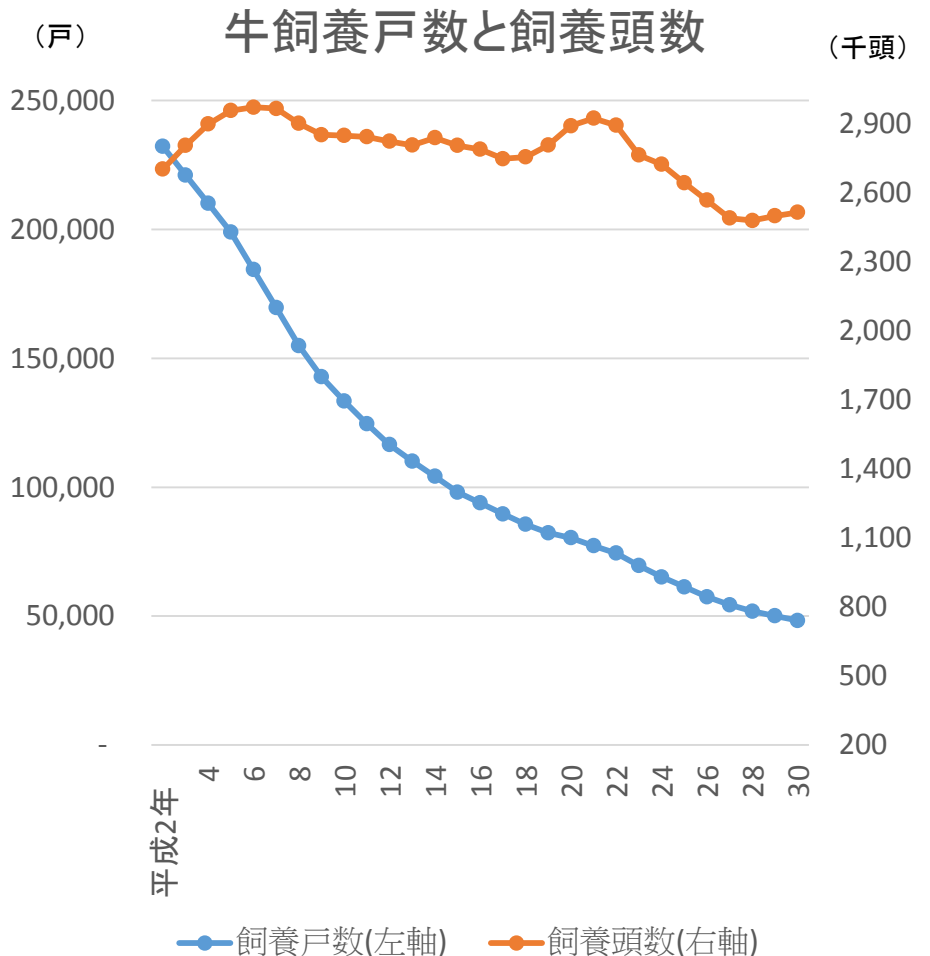


肉と魚の消費量推移、生産農家数

魚から肉へシフト、 **スターゼン**
一方調達が困難に

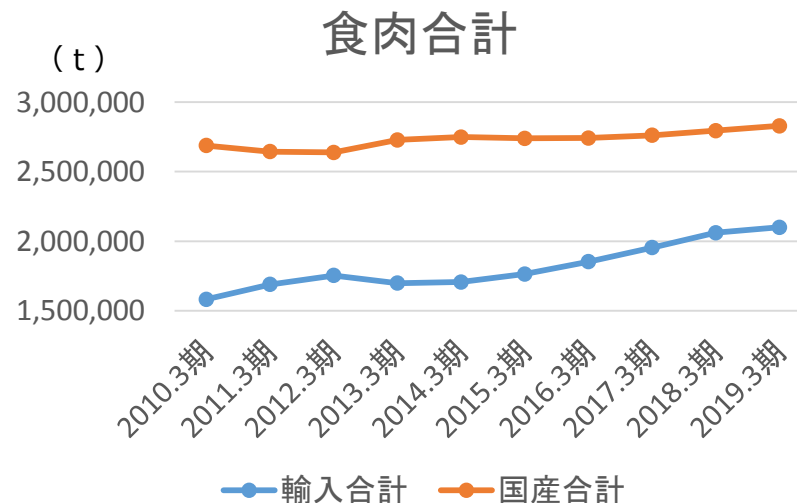
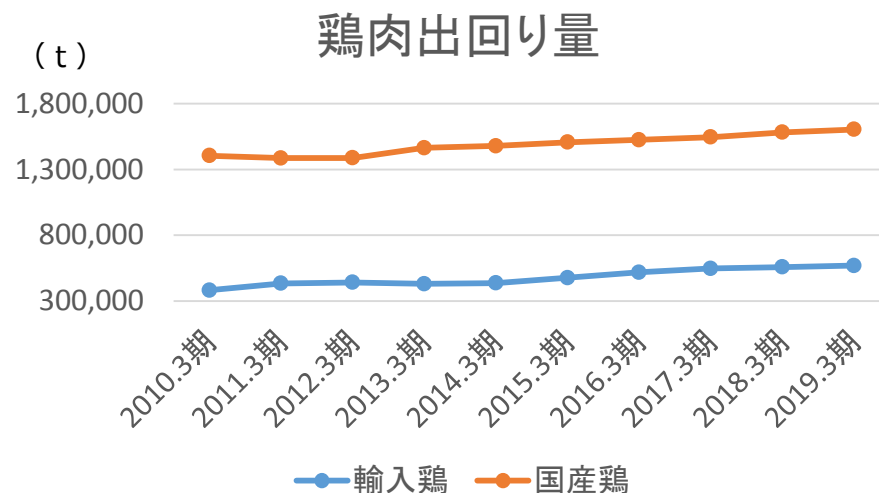
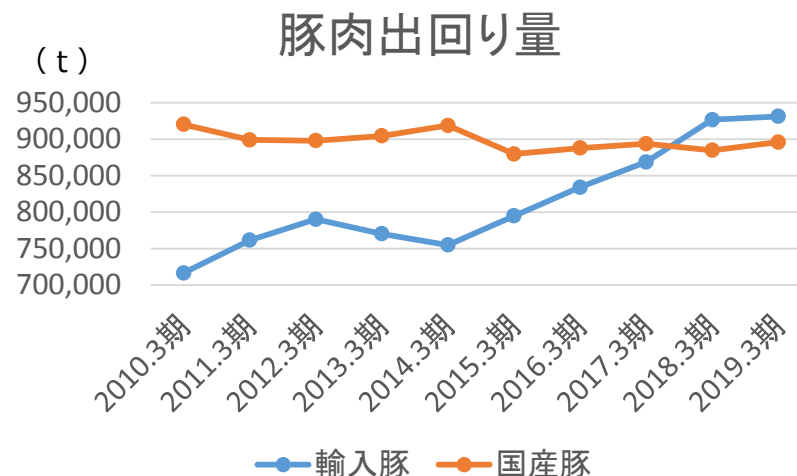
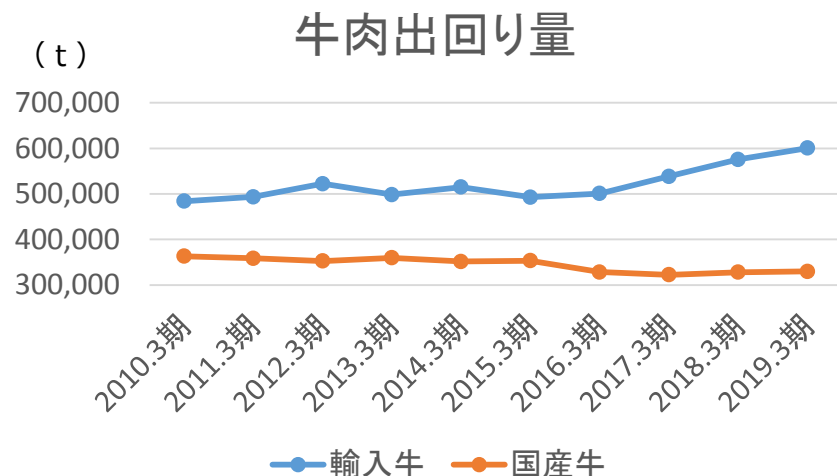


農林水産省:食料需給表より 純食料ベース

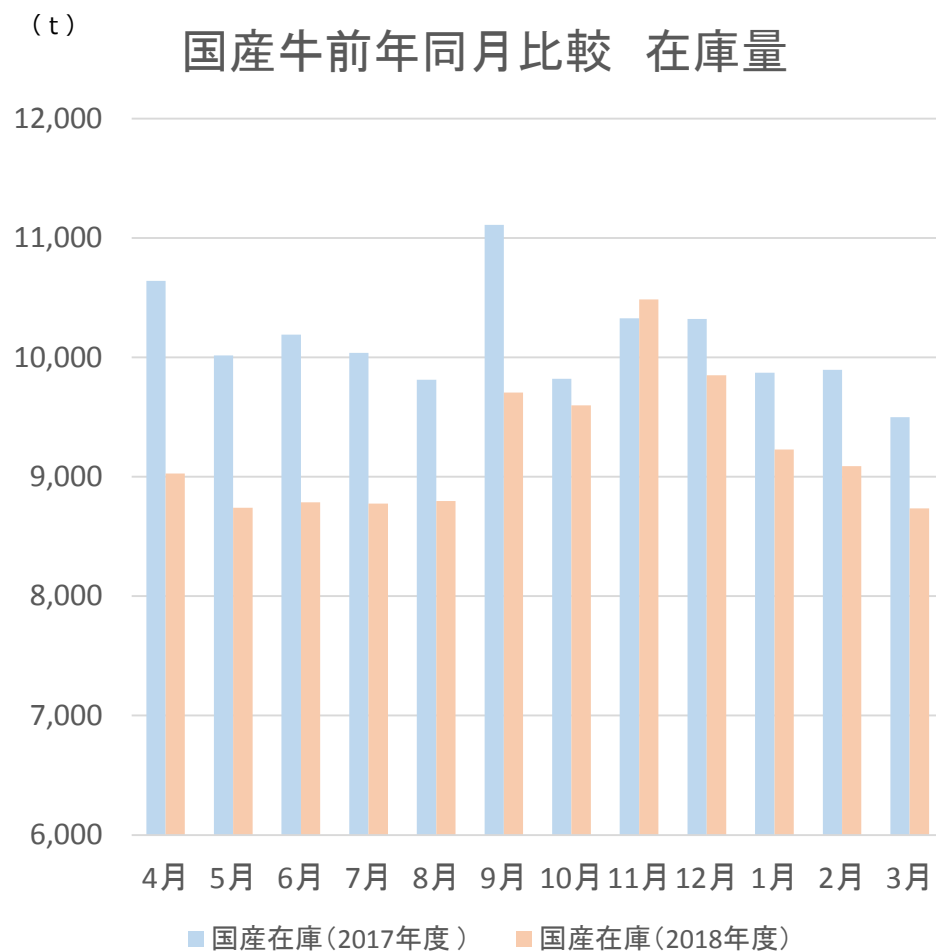
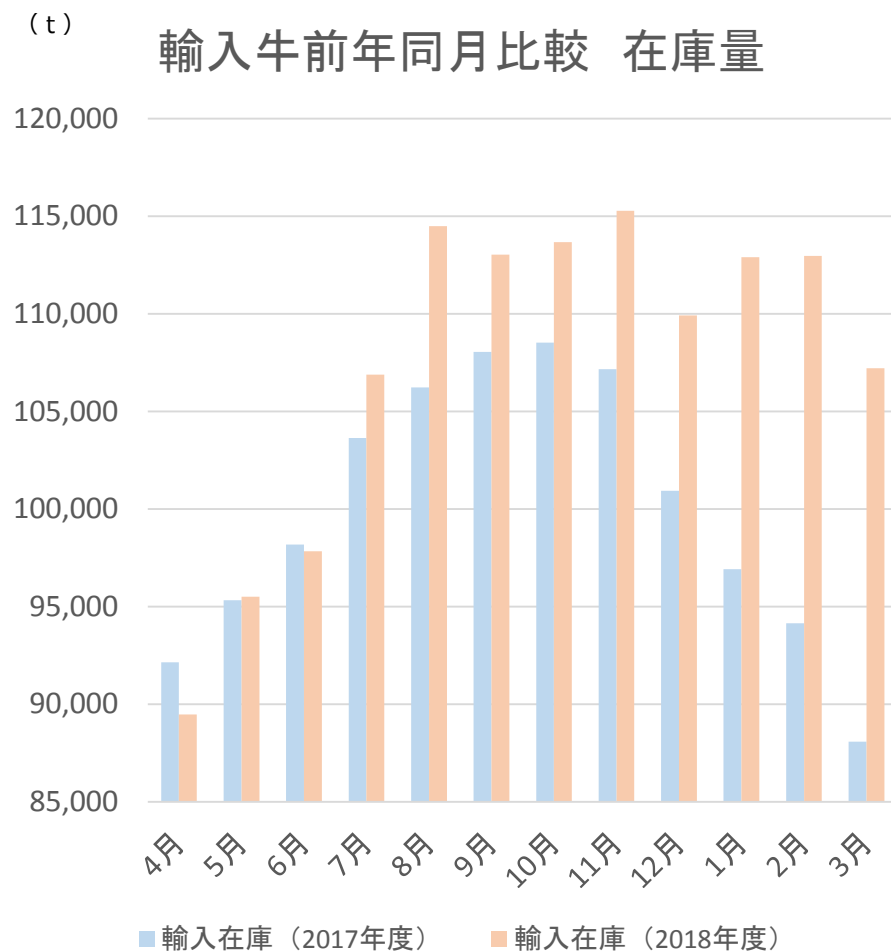


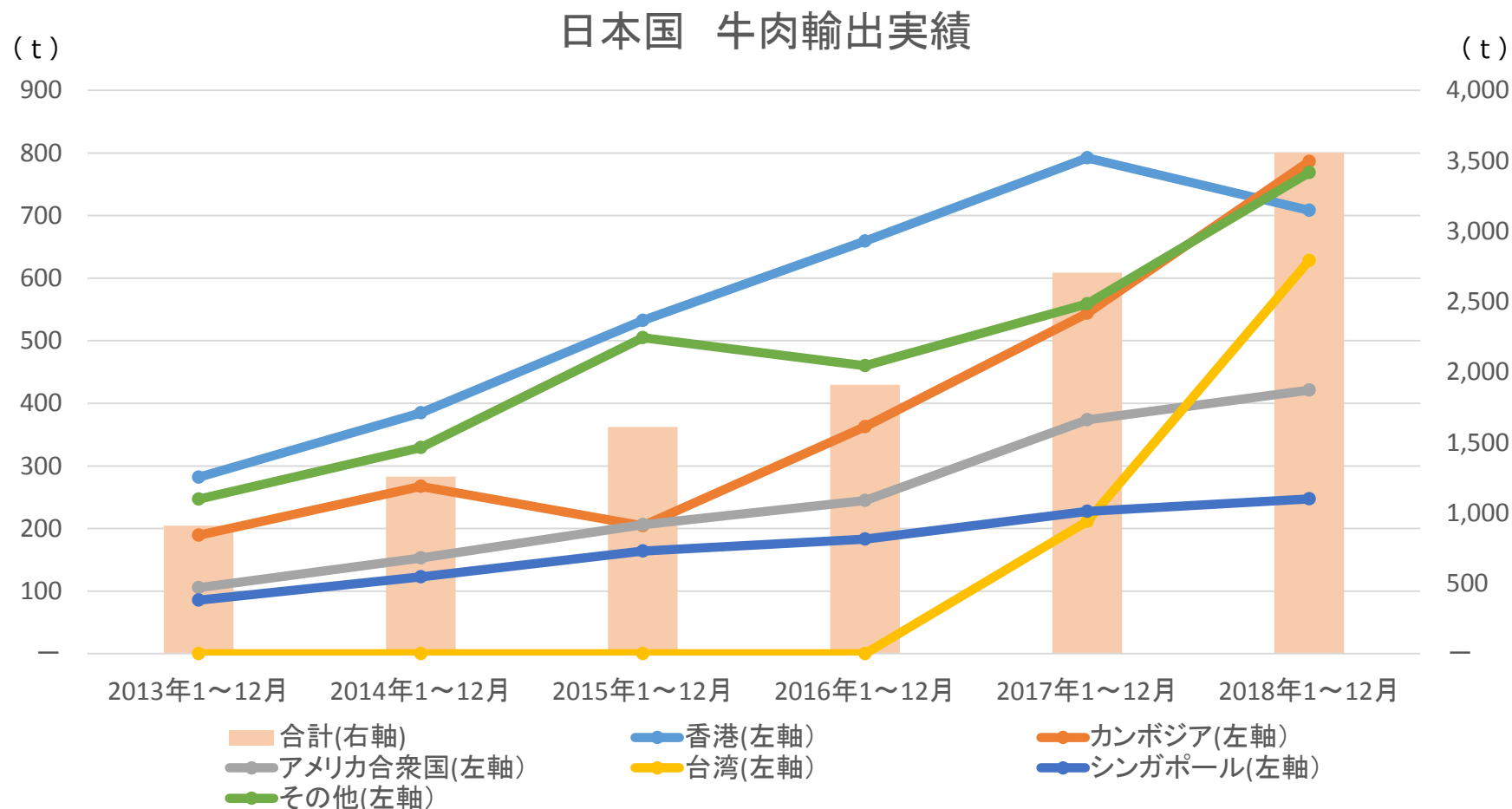
農畜産業振興機構:国内統計資料 肉用牛の飼養動向より

国内食肉流通量(10年間推移) 輸入シフトが鮮明



国内食肉在庫量(前年同月比)





(参考)2018年4月～2019年3月の日本国全体の牛肉輸出実績は前年比+28.1%

農水省：農林水産物輸出入概況より

当資料は投資家の参考に資するため、スターゼン株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。記載内容は、2019年5月23日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。本発表にて提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みますが、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。